はるひがんえほうよう

春彼岸会法要のご案内

日時　三月　二十一日（木）中日
午前　十一時三〇分より

お涅槃会（お釈迦様へのご供養）
お施餓鬼（ご先祖への供養）等
※同封の志納袋に志納金を入れてお寺までお申込み下さい。

お彼岸（春彼岸会）とは

《ご先祖供養の一週間》

「暑さ寒さも彼岸まで」と言われますように、お彼岸は日本では季節の変わり目にあたります。仏教の世界では、陽が沈む西方に極楽浄土があると説かれ、お彼岸の中日には、陽が真西に沈むので、この頃にご先祖への供養を行なえば、霊魂が浄土に行くことが出来るという信仰があるのです。そうした信仰から、私達がお彼岸の期間に家族そろって（お寺参り）や（お墓参り）をするようになったと言われています。そこに、ご先祖への感謝の心を忘れないことも大切です。

また、このようなご先祖様に対する良いご供養が、功徳善行となって私達にも巡ってくるのです。

～皆の為に、家族揃ってお彼岸のお参りを致しましょう～

修証儀（しゅしょうぎ）　第四章　発願利生（ほつがんりしょう）の巻

「菩提心（ぼだいしん）を発（おこ）すというは、己（おの）れ未（いま）だ渡（わた）らざる先に一切衆生（いっさいしゅじょう）を渡さんと発願（ほつがん）し営（いとな）むなり。設（たと）い在家（ざいけ）にもあれ、設（たと）い出家（しゅっけ）にもあれ、或（ある）いは天上（てんじょう）にもあれ或（ある）いは人間にもあれ、苦にありというとも楽にありというとも、早く自未得度先度他（じみとくどせんどた）の心を発（おこ）すべし」

覚（さと）りを求める心をおこすということは、自分が彼岸（覚り）に渡っていなくても、生きとし生ける全ての者を彼岸に渡そうという願いを起し、それを実行する事です。たとえ在家者であっても、出家者であっても、天上界にいようが人間界にいようが、苦しい時でも楽しい時にも、自分は彼岸にいなくても、まず他者を彼岸に渡そうという願いをおこしましょう。

平成三十一年　三月　吉日

合掌

曹洞宗（そうとうしゅう）　膽振山大雄寺（いぶりざんだいおうじ）

住職　奥村　孝善